

目次

2018年秋～2020年春 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	19
テキストのご案内	27
雑誌「日本文学」発売中	31
製作協力した電子学術雑誌	31

未 発

2020年 春

ジ ュ ニ ア 版

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

房主より

ひつじ書房は、30周年を迎えました。私が1990年に創業してから30年がたちました。その時は、埼玉県春日部市の私の実家の一部屋でスタートしました。よく30年続けられたものだと思います。ちょうど日本語学の勃興のタイミングでの創業でした。1990年代後半以降に大学院に進まれた研究者の方にとっては、研究を始めたころには、もう存在していたこととなりますので、盤石な既成の出版社と思われるかも知れません。しかし、創業時は、言語の研究書を出しているのは、くろしお出版さんしかなく、後から追いつこうと創業しました。新たに1つの学問が立ち上がる時の活気というもの大きなものです。勢いがあり、かつ、いろいろな方のご支援をいただきました。そのおかげでここまで来られたと思います。ありがとうございます。小さな規模ですが、社員とともに歩んでいます。

出版業界の苦境は続いています。デジタル化に成功し、それを組み込んだ大手出版社は、苦境から抜け出したという方もいますが、人文書の刊行の厳しさは続いています。言語研究の出版も容易ではありません。一般的な読者を獲得しにくい地道な研究が多いと思います。大学という制度や研究コミュニティがあって助けてもらっていますが、その基盤も安泰ではありません。教育制度や大学制度や学問ジャンルも捉え直されています。制度やシステムが時代に即しているのか。人文学は守るべきだと思いますが、ただ、守るだけではなく、20世紀的なあり方とは違ったものになっていくでしょう。研究のあり方、方向も変わるとともに、学問の再生産と需要のあり方も変わっていくでしょう。それにきちんと対応できているのか。学問自体の再生産についても曲がり角に来ていると思います。インターネットが情報流通の基盤になった結果、便利にはなりましたが、コミュニケーションは分断される傾向にあります。電子的な出版も組み合わせ、クローズドな固定的な専門の中だけのやり取りではなく、横断的な交流、発信、共有のあり方を作り直せるように努めていきたいと思っています。



新刊情報は
こちらからご覧いただけます。



ひつじ書房ウェブサイト
新刊紹介ページ

<http://www.hituzi.co.jp/books/sinkan.html>

ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

<http://www.hituzi.co.jp/> e-mail toiawase@hituzi.co.jp

tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917



2018 年秋～2020 年春 新刊のご案内

＊印のついているものは、2019 年秋以降刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第 122 巻 **話し言葉と書き言葉の接点** (並製)

石黒圭・橋本行洋編

A5 判・292 頁・978-4-89476-975-5 定価 4,000 円＋税 発行 2019. 4

日本語学会 2013 年度春季大会(大阪大学)において行われた学会シンポジウムをもとにした論文集である。シンポジウムのパネリストに本テーマに関わる第一線の研究者を加えた、計 13 名による考察。フィクションの言葉やヴァーチャル方言、語用論の視点やコーパスによる視点を取りあげた共時的研究から、古代語や鎌倉時代、明治時代の言葉などをテーマとする通時的研究まで、言語研究の各方面から書き言葉・話し言葉へ迫る。執筆者：石黒圭、乾善彦、金水敏、今野真二、定延利之、滝浦真人、田中ゆかり、野田春美、野村剛史、橋本行洋、丸山岳彦、屋名池誠、山本真吾

★重版に際し、ISBN コードと価格を変更し、軽装版になりました。

第 148 巻 **場面と主体性・主観性**

澤田治美・仁田義雄・山梨正明編

A5 判・792 頁・978-4-89476-844-4 定価 15,000 円＋税 発行 2019. 4

言語は、誰かが(主体、話し手)、誰かに(場面、聞き手)、何かを(素材)語るところに成立する。言語の背後に在って言語形式を支えている、場面(コンテキスト)、主体・主観、視点、推意、前提、(素材の)概念化などを考慮に入れない限り、言語の本質に迫ることはできない。本書は、こうしたテーゼに基づいて言語研究をいっそう深化させるべく、30 余名の国内外の第一線の研究者が寄稿した本格的な研究書である。澤田治美教授古稀記念論文集をも兼ねる。

第 156 巻 **語彙論と文法論と**

村木新次郎著 A5 判・616 頁・978-4-89476-936-6 定価 8,800 円＋税 発行 2019. 10 ＊

語彙と文法とのかなめになるのは、単語である。単語の語彙的な意味の体系性を問うのが語彙論であり、単語がくみあわさって、文をつくる文法(形態論と統語論と形態統語論)の体系性を問うのが文法論である。昨今の日本語研究では、「文法と意味」「シンタクスと意味」という姿勢が主流に見える。そこでは、単語が等閑視され、形態論が軽視されている。本書は、日本語の単語と形態論をめぐる諸問題をあつかう。言語間の対照にもいいおよぶ。

第 157 巻 **日本語指示表現の文脈指示用法の研究**

庵功雄著 A5 判・288 頁・978-4-89476-957-1 定価 5,200 円＋税 発行 2019. 2

日本語の指示表現の文脈指示用法で最も多く使われるのは「この」と「その」である。本書では、両者の機能上の異なりをコーパスでの分布を含め多面的に検討する。限定詞という観点からは、「この」「その」は英語やフランス語などの「定冠詞」に対応すると考えられるが、その関係はどのようなになっているのか。本書では、名詞句の指示、照応に関する諸概念を一般言語学的比較に耐える形で規定した上で、この課題の解決を試みる。(日本学術振興会助成刊行物)

第 158 巻 **広東語文末助詞の言語横断的研究**

飯田真紀著 A5 判・308 頁・978-4-89476-958-8 定価 8,400 円＋税 発行 2019. 3

広東語は中国語の代表的方言の 1 つであるが、文末助詞(終助詞)という語類の発達が一大特色を成す。本書は、個々の文末助詞の精緻な意味記述、語類全体の体系分析を行い広東語の文末助詞の全体像を明らかにした。さらに、同じく文末助詞が発達した日本語との偶然とは見なしがたい多くの共通点を指摘し、東アジア・東南アジア言語によく見られる文末助詞という言語カテゴリーを言語横断的視点から再考する手掛かりを提供した。



第159巻 江戸語資料としての後期咄本の研究

三原裕子著 A5判・516頁・978-4-89476-959-5 定価8,800円＋税 発行2019.12 ＊

従来、後期咄本は江戸語資料としての価値を認められることが少なかった。しかし一方で、当時既に古臭さ・尊大さを想起させる「ござる」、婉曲な拒絶を表す「一昨日来い」等の様々な実例が見られ、市井の会話が得られる資料と言える。本書はこれらの実例から〈表記変化を促すもの〉〈類型化と使用層の変化〉等、表記・語彙・語法他の視点から、江戸語が上方語的要素を脱し、独自の発展を遂げた変化の要因を論じるものである。



第161巻 文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究

学習者の母語から捉えた日本語理解の姿

石黒圭編 A5判・260頁・978-4-8234-1007-9 定価6,800円＋税 発行2020.1 ＊

「家の奥」ってどこ？ 「若干名」って何人？ 「小枝を拾って食べる」？ 「観光地のソフト」と「ソフトの朝練」の「ソフト」は同じ？ 「名前を控える」と「お酒を控える」は？ 日本語学習者の頭のなかで起きている意味の理解という不思議な現象を、母語による分析からあぶり出し、その語彙推測能力や文脈把握能力に迫る画期的論文集！ 執筆者：井伊菜穂子、石黒圭、烏日哲、赫楊、Nguyen Thi Thanh Thuy、田中啓行、Dang Thai Quynh Chi、張秀娟、布施悠子、宮内拓也、蒙韞、劉金鳳



第163巻 三重県尾鷲方言のアクセント研究

平田秀著 A5判・192頁・978-4-8234-1009-3 定価7,300円＋税 発行2020.1 ＊

三重県尾鷲市尾鷲方言のアクセント体系について、フィールドワークにもとづいて詳細に記述する。尾鷲方言のアクセント体系は、3つの「式」の対立をもつ点、単独形では高い音調をもつ語が音環境によって低く発音される「連続変調」がみられる点が、通方言的にみて特異である。尾鷲方言は、2つの式の対立をもつ京阪方言とかつては同系統であったととらえられ、尾鷲方言が3つの式をもつに至った経緯について、考察を行う。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第164巻 言語と慣習性

ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態

土屋智行著

A5判・152頁・978-4-8234-1010-9 定価4,200円＋税 発行2020.2 ＊

本書は定型表現とその拡張用法の網羅的な記述・分析を通して、言語と慣習の関係を認知・社会的な側面から考察したものである。日本語慣用表現や諺をはじめとした定型性の高い表現を多く収集し、コーパス言語学の手法を用いて分析している。また「形式的変化を容認しにくい」と言われていた定型表現が様々な形式的変化を伴って使用されている事例を示し、定型的言語から創造性が発揮されるダイナミズムを理論的にまとめ上げている。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第165巻 近現代日本語の「誤用」と言語規範意識の研究

新野直哉著 A5判・304頁・978-4-8234-1011-6 定価6,500円＋税 発行2020.2 ＊

本書は、副詞“全然”に関する昭和10～20年代を中心とした学界・一般社会双方における規範意識の考察や、現代日本語における「誤用」の定番例として知られている“気がおけない”・“世間ずれ”・“名前負け”等の使用実態と言語規範意識についての考察を行い、さらに昭和戦前～20年代の日本語の実態とそれに関する言語規範意識の研究に役立つ新資料の紹介およびそれを用いた研究の実例をも示したものである。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第166巻 東北方言における述部文法形式

竹田晃子著 A5判・304頁・978-4-8234-1012-3 定価8,000円＋税 発行2020.2 ＊

本書は、東北方言における述部文法形式のうち、特徴的な形式が用いられる自発表現・可能表現およびテンス・アスペクト・ムードを取り上げ、共時的・記述的な観点による臨地面接調査、話者の属性差に注目した社会言語学的調査、明治から平成まで約百年間の方言分布調査を分析し、個々の現象・形式や各方言の体系的あり方および地理的分布が形成される過程の解明をめざしたものである。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第167巻 英語中間構文の研究

吉村公宏著 A5判・336頁・978-4-8234-1013-0 定価7,200円＋税 発行2020.2*

理論を問わず、英語中間構文は人気のあるテーマである。しかしながら、看過されてきた問いは、能動と受動の中間がなぜ「属性」を表現するのか、そのときの属性とはそもそも何か、という根源的な問いである。本書は伝統文法、生成文法、認知文法の研究成果を総括し、上記の問いに認知意味論的視点から切り込む。多数の実例データを駆使し、新しい説明原理によってその本質に迫る。認知意味論・語彙・構文・語法の研究者には必見の一冊。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第168巻 共同注意場面による日本語指示詞の研究

平田未季著 A5判・244頁・978-4-8234-1014-7 定価6,400円＋税 発行2020.2*

本書は、日本語母語話者が目の前の対象へ共同注意を確立するために行うやりとりを観察し、それに基づいたコ系・ソ系・ア系の新たな意味論および語用論的分析を提示する。近年の海外の指示詞研究で注目されている「聞き手の注意の状態」などより相互行為的な要因を分析に導入し、直示用法、テキスト内用法、またコ系・ソ系・ア系に後接する「-レ」、「-コ」などの接尾辞も含め、相互行為場面に根差した統合的な日本語指示詞研究を行う。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第169巻 ビジネス文書の応用言語学的研究

クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析

石黒圭編 A5判・322頁・978-4-8234-1016-1 定価7,200円＋税 発行2020.2*

生きたビジネス文書をネット上からコーパスとして取り出せる時代が到来した。クラウドソーシングをデータベースとし、日本語の国立国語研究所とAIの富士通研究所のコラボで、ビジネス日本語の諸問題と改善法を実証的に明らかにした、新境地を開拓する論文集！ 執筆者：青木優子、浅井達哉、石黒圭、市江愛、井上雄太、岩崎拓也、岩田一成、赫楊、喬曉筠、熊野健志、佐野彩子、蒙韞、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ



第170巻 学際的科学としての言語学研究

吉田光演教授退職記念論集

田中雅敏・筒井友弥・橋本将編

A5判・416頁・978-4-8234-1017-8 定価12,000円＋税 発行2020.3*

本書は、広島大学大学院総合科学研究科教授吉田光演先生が、2020年3月に定年を迎えられるに際し、国内外のドイツ語学・言語学研究者が寄稿した記念論文集である。吉田教授は、言語学者・教育者として多大な功績を残され、多くの言語を対象に専門分野は多岐にわたる。本書に収録された論文は、音韻論、統語論、意味論、語用論から言語教育、コーパス言語学、通訳理論まで様々な分野に広がっており、言語学研究の学際性を例証するものである。



講座 言語研究の革新と継承 [全8巻]

4 認知言語学 I

池上嘉彦・山梨正明編

A5判・420頁・978-4-89476-670-9 定価4,200円＋税 発行2020.2*

認知言語学の体系は少しずつ形をとり始め、その過程は現在もまだ進行中と言ってよい。そこには、その若さの故の不確かさも多く内蔵されているが、新しいことの起こりうる可能性も豊かに内包している。「百花繚乱」とも言える認知言語学研究の各テーマを、第一線で活躍する研究者が解説する。執筆者：山梨正明、崎田智子、堀江薫、金杉高雄、守屋三千代、李在鎬、小松原哲太、安原和也、澤田淳、米山三明、杉本孝司、仲本康一郎、井上京子、黒滝真理子、吉村公宏、森雄一



5 認知言語学 II

池上嘉彦・山梨正明編

A5判・436頁・978-4-89476-671-6 定価 4,200円＋税 発行 2020.2 *

認知言語学の体系は少しずつ形をとり始め、その過程は現在もまだ進行中と言ってよい。そこには、その若さの故の不確かさも多く内蔵されているが、新しいことの起こりうる可能性も豊かに内包している。「百花繚乱」とも言える認知言語学研究の各テーマを、第一線で活躍する研究者が解説する。執筆者：池上嘉彦、早瀬尚子、野村益寛、進藤三佳、黒田一平、大堀壽夫・秋田喜美、深田智、菅井三実、鍋島弘治朗、木原恵美子、碓井智子、大月実、大谷直輝、高橋英光、坪井栄治郎、友澤宏隆、有光奈美

シリーズ既刊

1 日本語語彙論 I 斎藤倫明編

2 日本語語彙論 II 斎藤倫明編



Hituzi Linguistics in English

No.29 An Affect-Oriented English Pronunciation Instructional Design for Japanese University Students

中條純子著 菊判・198頁・978-4-89476-922-9 定価 11,000円＋税 発行 2020.3 *

日本人大学生の英語音声の向上を目的としたインストラクショナルデザイン(教育設計)を提起し、実際の教材の開発過程を通して得た知見を授業改善に応用することで、口頭コミュニケーション能力の向上を目指す。特に学習者の情意領域(学習者の教育内容に対する態度、価値観の形成を行い、外国語学習を促進または妨げる要因を持つ領域)に注目し、英語音声面に対する心理的障壁を取り除くことを重視した教材の開発の戦略と方法を論じる。



No.30 The Diffusion of Western Loanwords in Contemporary Japanese A Variationist Approach

久屋愛実著 菊判・248頁・978-4-89476-949-6 定価 12,600円＋税 発行 2019.2

本書は、現代日本語語彙の「カタカナ語化」の様相を変異研究の視点から解明する社会言語学の研究書である。英語を主とする西欧諸語との言語接触の結果、日本語には和語や漢語と同じ意味を持つカタカナ語(「ケース」・「サポート」など)が多数存在する。意識調査とコーパス調査を通じて、カタカナ語が選択される言語的要因、使用者の社会的属性との相関、場面による既存語との使い分け、見かけ時間と実時間を利用した変化予測モデルなどについて論じる。



No.31 Tag Questions and Their Intersubjectivity

A Cognitive Linguistic Approach

中谷博美著

菊判・122頁・978-4-8234-1023-9 定価 8,800円＋税 発行 2020.2 *

本書は、認知言語学的アプローチにより、付加疑問文の本質に迫ろうとするものである。先行研究では、用法の列挙と規則の提示に留まっており、用法間の関係や構造の変化を伴う事例に説明を与えていない。本書では、実際の使用例を認知文法の「現行談話スペース(Current Discourse Space)」と「Anchoring Structure」の概念に基づいて分析し、なぜ多様な意味機能と形式を持つのか、何が構造に変化を生じさせるのかを付加疑問文の持つ主観性から明らかにしていく。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



16 アスペクト論

ユーリー・S・マシロフ著 林田理恵、金子百合子訳

A5判・432頁・978-4-89476-721-8 定価 10,000円＋税 発行 2018.9

諸言語のアスペクト現象が通時的経系のどこに位置し、共時的横系においていかなる平衡状態を示しているか、また動詞の語彙の意味との相関性、テンス・タクシスとの関わりなどを詳細に分析する。マシロフによる本書のアスペクト・カテゴリーの基本枠組み、緻密な考察は、アスペクト研究の流れを決定づけたと言われる。1984年の発表以来、現在まで、多くの論者によって引用されてきた現代アスペクト研究史における金字塔の全訳。



18 コミュニケーションテキスト分析

フランス学派による言説分析への招待

ドミニク・マンガノー著 石丸久美子、高馬京子訳

A5判・316頁・978-4-89476-884-0 定価 3,500円＋税 発行 2018.10

ソルボンヌ大学言語学教授によるベストセラー書籍の翻訳。本書では、広告、雑誌・新聞などメディアのテキストに焦点をあて、記号学的分析から一歩進んだ最新のフランスの言説分析の方法論を全21章で紹介。テキストの言説分析をより論理的に実践するための方法論とその事例研究が満載された、フランス言語学を専門にする学生、研究者のみならず、メディア研究に携わる研究者等幅広い読者を対象とする、学際的分野としてのメディア言説分析方法論の手引き書である。



20 意味変化の規則性

エリザベス・C・トラウゴット、リチャード・B・ダッシャー著 日野資成訳

A5判・400頁・978-4-89476-952-6 定価 4,400円＋税 発行 2019.2

本書は意味変化における体系性について、これまでの比喩や文法化などの観点ではなく、歴史語用論と談話分析の観点から論じている点が斬新的である。データは日本語と英語の二千年以上にわたる広範なコーパスにもとづく。原著者の提示する「推論喚起論」は「意味は、話し手や書き手が聞き手や読み手とやり取りする中から起こる」ことを示している。原著者の注に加えて訳者注を設け、原著の言語学用語を分かりやすく解説した。〈日本学術振興会助成刊行物〉



真田信治著作選集 シリーズ日本語の動態 [全4巻]

第3巻 アジア太平洋の日本語

真田信治著 四六判・184頁・978-4-89476-917-5 定価 1,800円＋税 発行 2019.1

「日本語の動態」に関するシリーズの第3巻である。本書では、かつての日本の統治下で日本語を第2言語として習得した人々の日本語運用に関して、また、台湾の宜蘭県で発見された日本語系クレオール語の実態について、著者の既発表の論稿をセレクトし集成した。記述の状況はいずれも国語教育、日本語教育に当たって基本的に踏まえておくべき内容である。教育、研究に携わる人だけでなく、一般の方々に是非とも読んでいただきたい。



第4巻 ことばの習得と意識

真田信治著 四六判・176頁・978-4-89476-918-2 定価 1,800円＋税 発行 2019.9*

「日本語の動態」に関するシリーズの第4巻である。本書では、ことばと文化の相関、第1言語の習得、母語への態度、理解語彙の習得過程、個人語彙の基底層と年齢的推移、ことばの喪失などをめぐって、著者の既発表の研究論稿をセレクトし集成した。記述の内容はいずれも国語教育、日本語教育に当たって基本的に踏まえておくべき事柄である。国語教育、日本語教育に携わる人だけでなく、一般の方々に是非とも読んでいただきたい。



シリーズ既刊

第1巻 標準語史と方言

第2巻 地域・ことばの生態

36 日本語教育における「のだ」の研究

戴宝玉著 A5判・280頁・978-4-89476-864-2 定価4,200円＋税 発行2020.4*

本書は、日本語学習者にとって最も習得困難な表現の一つであるノダを包括的に扱い、ノダの全体像を掴むことを試みる。ノダを先行事態を必要とするものと必要としないものの二つに分け、後者を前者の拡張したものと捉えることによって、一見無秩序に見えるノダの多様な意味を統一的に解釈することが可能になった。外国人日本語教師という筆者の立場から、本書における研究が教育現場でも役立つよう配慮した。



38 文学教材を用いた英語授業の事例研究

久世恭子著 A5判・408頁・978-4-89476-987-8 定価8,000円＋税 発行2019.10*

実際の大学授業事例から英語教育における文学教材の意義を再検討した研究書。本書では、日本の英語教育における文学教材の立ち位置を歴史的に確認し、英米での歴史や理論を踏まえた上で、これまで余り明らかにされてこなかった授業展開や学習者の反応を分析しデータとして示している。コミュニケーション能力育成やESP (English for specific purposes) を重視した授業での文学教材利用の可能性も追究する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



39 日本語教育におけるメタ言語表現の研究

李婷著 A5判・368頁・978-4-8234-1021-5 定価7,200円＋税 発行2020.1*

メタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知の向上を結びつける日本語教育を提案。日本語学習者の視点を基に、メタ言語表現の学習の意義を捉え直した上で、豊富な談話資料より収集したメタ言語表現を分析する。初級日本語クラスでの学び、インタビューで得られた学習者の語り、待遇コミュニケーション論と文章・談話論に基づいた分析、いずれも日本語教師や日本語教育研究者に有益である。

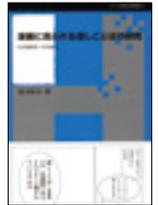


41 漫画に見られる話しことばの研究

日本語教育への可能性

福池秋水著 A5判・212頁・978-4-8234-1015-4 定価5,000円＋税 発行2020.2*

東京を中心とした首都圏の話しことばは、首都圏方言と呼ばれ、多くのドラマ、漫画などの作品で用いられるほか、日本語の会話教育でも取り入れられることがある。本書では、主に漫画作品を対象として、ラ行音の撥音化(わからない→わかんない)等、首都圏方言の表現のゆれがどのように使い分けられているかに関する観察を行った。日本語学習者の表現の幅を広げる支援を行うための基礎研究となることを目指す。



英語コーパス研究シリーズ(堀正広・赤野一郎監修)[全7巻]

第1巻 コーパスと英語研究

堀正広・赤野一郎編

A5判・280頁・978-4-89476-711-9 定価3,200円＋税 発行2019.10*

英語コーパス学会20周年を記念した網羅的なコーパス研究シリーズ「英語コーパス研究」第1巻。本巻は日本における英語コーパス研究の始まりと現状についての詳細な資料に基づいた分析と「私のコーパス利用」において様々な英語研究の方法を提示した論考からなっている。英語コーパス研究の過去・現在・未来について概観することができる。シリーズ総索引付。



シリーズ既刊

第2巻 コーパスと英語教育 投野由紀夫編

第3巻 コーパスと辞書 赤野一郎・井上永幸編

第4巻 コーパスと英文法・語法 深谷輝彦・滝沢直宏編

第5巻 コーパスと英語文体 堀正広編

第6巻 コーパスと英語史 西村秀夫編

第7巻 コーパスと多様な関連領域 赤野一郎・堀正広編

1 断絶のコミュニケーション

高田博行・山下仁編

A5判・272頁・978-4-89476-961-8 定価 3,800円＋税 発行 2019.3

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第1巻。第1部「ナチズムと言語」では、言語学史、メディア学、芸術論の観点からナチズムを分析。現代に至るナチズムの言説を再検討する。第2部「現代社会と言語」では、報道文や移民の言語、ヘイトスピーチ、また現代社会でそもそもコミュニケーションは可能かという問題に切り込む。執筆者：大宮勘一郎、川島隆、佐藤卓己、高田博行、田中克彦、田中翔太、田中慎、田野大輔、野呂香代子、初見基、山下仁



ひつじ研究叢書(文学編)

11 太宰治と戦争

内海紀子・小澤純・平浩一編

A5判・386頁・978-4-89476-977-9 定価 5,800円＋税 発行 2019.5

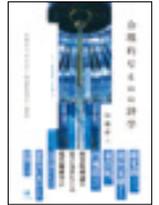
2019年6月19日に生誕110年を迎える、小説家・太宰治(1909-1948)。その創作期は、満州事変から、日中戦争、太平洋戦争を経て、戦後占領期に重なる。本書は、戦争から太宰治の生きた時代と作品を捉え直すことを目指し、共同研究「クロニクル・太宰治と戦争1937-1945」、「太宰治と戦争」の関係を多角的に再考する研究論文11本とコラム2本を収録、新たな研究の視界を切り拓く。執筆者：滝口明祥、野口尚志、井原あや、松本和也、吉岡真緒、斎藤理生、大國真希、内海紀子、長原しのぶ、小澤純、平浩一、五味潤典嗣、若松伸哉



12 合理的なものの詩学 近現代日本文学と理論物理学の邂逅

加藤夢三著 A5判・384頁・978-4-8234-1025-3 定価 5,600円＋税 発行 2019.11 *

近現代日本文学の書き手たちは、同時代の理論物理学やその周辺領域の学知に、どのような思考の可能性を見いだしていたのか。「合理」的なものの見方を突き詰めていたはずの作家たちの方法意識が、時として「非合理」的な情念へと転化するのはどうしてなのか。本書は、その総合的な表現営為のありようを検討することを通じて、モダニズムの文芸思潮から今日のサイエンス・フィクションにいたるまでの芸術様式の系譜を再考することを試みたものである。



日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第1巻

「する」の世界

庵功雄・田川拓海編

A5判・248頁・978-4-89476-781-2 定価 4,000円＋税 発行 2019.10 *

本書では、「する」(ル形)に関する研究を集めた。「する」が未来を表す条件、心理動詞における「する」と「している」、「する・した・している」の意味論、形態論から見た「する」、他言語における未来と接続法の関係および「する」と「している」の関係など、テンス・アスペクト・モードに関わる「する」の特徴を多面的に捉える。執筆者：有田節子、庵功雄、伊藤龍太郎、井上優、高恩淑、田川拓海、仁田義雄、和佐敦子



日本語と世界の言語の名詞修飾表現

プラシャント・パルデン、堀江薫編

A5判・584頁・978-4-8234-1036-9 定価 8,800円＋税 発行 2020.5 *

名詞(連体)修飾表現は世界の諸言語の研究において最も研究されてきた言語現象の一つである。本論文集は東から北東・中央・西・東南・南までを含むアジア諸言語、ヨーロッパ言語の名詞修飾表現に関する26本の論文を収録している。対照言語学・類型論的観点から「内の関係」(所謂「関係節」)のみならず、通言語的研究の少ない「外の関係」の名詞修飾表現に関しても分析を広げており、名詞修飾表現に関心を持つ読者にとって必読の文献である。



日本語 下手談義

杉本つとむ著 四六判・516頁・978-4-89476-890-1 定価 4,400円＋税 発行 2019.11 *

日本近代語の研究者として多くの著作のある杉本つとむ氏の90歳を記念して、ご自身のこれまでに書かれたことばに関わるエッセイを集めたもの。漢字、俗字、辞書と辞書史、長崎通詞、日蓮の言語生活、緒方洪庵と適塾、稲荷山古墳の鉄剣の銘、長谷川伸、川路柳虹、文明開化、女ことば、日本語教育など、テーマは多岐に亘る。杉本氏のことばに関する広い思索の軌跡を知ることができる。



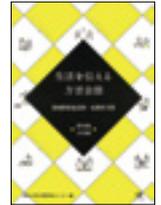
生活を伝える方言会話【資料編・分析編】 宮城県気仙沼市・名取市方言

東北大学方言研究センター編

B5判・528＋336頁・978-4-89476-984-7 定価 9,600円＋税 発行 2019.10 *

本書は方言の日常会話を記録し公開した資料編と、それを多角的に分析した分析編からなる。これまで主流だった自由会話に対して、ここでは言語行動の枠組みに基づいて体系的に設定した約150場面の会話を収録し、地域の言語生活を全体的に記録している。会話データ作成の新しい方法論を提案するとともに、資料の特徴を生かした分析をおこなう。執筆者：太田有紀、大橋純一、川崎めぐみ、櫛引祐希子、甲田直美、小林隆、作田将三郎、櫻井真美、佐藤亜実、澤村美幸、椎名渉子、竹田晃子、田附敏尚、玉懸元、津田智史、中西太郎、吉田雅昭

★会話資料CD-ROM付き



方言の研究 5 特集 移りゆく現代方言

日本方言研究会 A5判・384頁・978-4-89476-990-8 定価 5,000円＋税 発行 2019.9 *

今起きつつある進行中の言語変化をとらえ、未来の方言の姿を考える。今まで報告されていない思いもよらない変化の指摘、若い世代で起こる改新とその言語的要因・社会的動機の解明、言語変化の分析に用いる新しい方法の提示等、新鮮な観点からのアプローチを展開する。執筆者：阿部貴人、岩崎志真子、岡野かおり、籠宮隆之、狩俣繁久、坂井美日、佐藤和之、佐藤高司、佐藤亮一、沢木幹栄、白田理人、杉村孝夫、高木千恵、田中リディア、津田智史、友定賢治、中井幸比古、中川寛之、中根育子、林直樹、松田美香、マリィ・クレア、水野義道、村中淑子、山本友美、横山晶子、米田正人



A Descriptive Study of the Modern Wolaytta Language

若狭基道著 菊判・852頁・978-4-8234-1024-6 定価 45,000円＋税 発行 2020.2 *

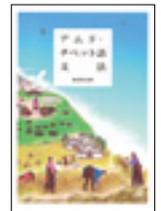
エチオピアの南西部で話されているウォライタ語(アフロアジア大語族、オモ系)の総合的で詳細な記述的研究。有声喉頭化音の存在の指摘、表記の実態の分析、「具体性」という概念を用いた普通名詞の形の使い分けの解明、固有名詞の多面的な記述、ヴォイスの複合現象の検討等、オリジナルな視点を含みつつもレファランスマスターとして望ましい姿を模索。世界的に密かな注目を集めていた博士論文、待望の出版。〈日本学術振興会助成刊行物〉



アムド・チベット語文法

海老原志穂著 A5判・400頁・978-4-89476-951-9 定価 8,800円＋税 発行 2019.2

東北チベット(中国青海省など)で話されるアムド・チベット語についての本邦初の文法書。同言語が話されている地域や話者、類型の特徴、周辺諸言語との言語接触に関する概況をはじめ、音韻・音声、形態的・統語の特徴、文法範疇、敬語や民俗語彙などの語彙の特徴を豊富な例文とともに網羅的にまとめ、チベット語に特徴的な文法現象である、証拠性(エヴィデンシャリティ)とウチ・ソトについても詳細に記述された言語学的研究。〈日本学術振興会助成刊行物〉



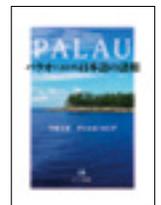
パラオにおける日本語の諸相

今村圭介、ダニエル・ロング著

A5判・232頁・978-4-89476-953-3 定価 5,800円＋税 発行 2019.2

ミクロネシアの島国パラオでは、戦前の委任統治の影響から様々な形で日本語の影響が残っている。近年メディアで話題となるパラオ語内の日本語借用語をはじめ、アンガウル州憲法における日本語の公用語の地位、戦前の日本語教育経験者が話す残存日本語、戦後生まれの話者による日本語準ビジン、日本語人名・地名やパラオ語の書き言葉における片仮名使用が見られる。本書はそのようなパラオにおける日本語の諸相を社会言語学的な背景とともに詳述する。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



ホーン『否定の博物誌』の論理

加藤泰彦著 A5判・152頁・978-4-89476-803-1 定価2,200円＋税 発行2019.4

現代の否定研究への最も重要な貢献は、ローレンス・ホーンの *A Natural History of Negation* (1989 初版、2001 増補再版；邦訳『否定の博物誌』)である。本書は、そこでの基礎的なトピックに関する、七篇の論考からなる。原著への入門となるとともに、今後の研究方向への手がかりを提示する。否定研究の意義、原著者の研究全体の紹介の後、「説明の探求」「尺度含意の計算」「メタ言語否定」「経済性効果」「経済性と均衡」をとりあげている。



言語の能格性

今西祐介著 A5判・200頁・978-4-8234-1033-8 定価3,800円＋税 発行2020.3*

能格性に関する日本語での初の概説書。能格言語の特異性を示すと同時に、英語や日本語と能格言語の類似性にも注目することで、言語の普遍性研究の重要性を説く。頻繁に議論される能格言語(バスク語やヒンディー語等)と筆者の専門であるマヤ諸語に焦点を当てながら能格性とそれに関連する言語現象を網羅的に紹介する。さらに、生成文法理論における能格性研究を概説しながら、当該理論の成果・問題点・今後の展望を明らかにする。



パソコンがあればできる！ことばの実験研究の方法

容認性調査、読文・産出実験からコーパスまで

中谷健太郎編 A5判・296頁・978-4-89476-964-9 定価2,600円＋税 発行2019.7

言語学における実験研究の重要性は近年ますます増しているが、実験の方法論は個人で身につけるには敷居が高いという側面もある。本書は「興味はあるけどやり方がわからない」という人に向けて、パソコンでできる実験研究の実践方法(容認性調査、自己ペース読文課題、語彙性判断課題、言語産出課題、コーパス調査、CHILDES 検索法)を紹介する。執筆者：青木奈律乃、浅原正幸、木戸康人、田中幹大、中谷健太郎、中野陽子



ELAN 入門 言語学・行動学からメディア研究まで

細馬宏通・菊地浩平編

A5判・288頁・978-4-89476-765-2 定価2,400円＋税 発行2019.6

音声、動作、視線変化など、複数のできごとの時間変化を、映像と音声波形を見ながら自在に分析する強力なツールが、マックス・プランク心理言語学研究所で開発された「ELAN」。いまや、会話分析、マルチモダリティ研究、映画分析、演奏分析からインタビューおこしにいたるまで、さまざまな分野で用いられている ELAN の最初の一步から応用までを、わかりやすく解説する。執筆者：榎本美香、菊地浩平、木本幸憲、伝康晴、細馬宏通



指さしと相互行為

安井永子・杉浦秀行・高梨克也編

A5判・272頁・978-4-89476-973-1 定価3,800円＋税 発行2019.7

人間が日常的にもっとも頻繁に用いるジェスチャーの一つ、指さし(ポインティング)に焦点を当て、会話分析の手法から、その多様な相互行為上のプラクティスを詳らかにすることを試みた国内外初の論文集。執筆者：遠藤智子、城綾実、杉浦秀行、高田明、高梨克也、森本郁代、安井永子



聞き手行動のコミュニケーション学

村田和代編 A5判・336頁・978-4-89476-935-9 定価3,200円＋税 発行2018.12

コミュニケーションにおける聞き手行動に着目し、異文化やジェンダーといった社会的なフィルターが内在された談話における「リスナーシップ」(聞き手の在り方や貢献)を多様なアプローチから実証的に映し出す。コミュニケーションを「聞き手」の立場から捉えなおすことを提案する論文集。執筆者：難波彩子、植野貴志子、山口征孝、岡本雅史、増田将伸、横森大輔、村田和代、森本郁代、片岡邦好、井出里咲子、ケード・ブッシュネル、釜田友里江、首藤佐智子

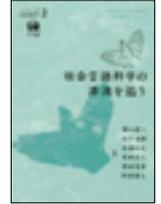


シリーズ社会言語科学 2 社会言語科学の源流を追う

横山詔一・杉戸清樹・佐藤和之・米田正人・前田忠彦・阿部貴人編

A5判・296頁・978-4-89476-931-1 定価 3,900円＋税 発行 2018.9

本書は2013年3月に統計数理研究所で開催されたシンポジウム『「ことば」と「考え方」の変化研究：社会言語学の源流を追って』にもとづいている。社会言語学の新しい流れを形づくっている研究活動と、源流として今も流れ続けている調査研究をそれぞれ取り上げ、これから向かうべき方向を模索した。また、科学的データを収集する調査の実際やデータ解析の方法論についても分かりやすく解説した論文集である。執筆者：阿部貴人、伊藤彰則、井上史雄、佐藤和之、佐藤亮一、杉戸清樹、中村隆、前田忠彦、前田理佳子、水野義道、御園生保子、森篤嗣、横山詔一、米田正人



会話分析の広がり

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実編

A5判・300頁・978-4-89476-853-6 定価 3,600円＋税 発行 2018.9

会話分析は近年、幅広い分野にまたがって発展を遂げ、扱う研究主題は目覚ましい広がりを見せている。本書は、それら新たな研究主題——多様な連鎖組織、相互行為言語学、相互行為における身体、フィールドワークとの関係、行為の構成、認識的テリトリー、多言語比較など——の展開を具体的な分析事例とともに概説し、会話分析の向かう先を展望する。執筆者：平本毅、増田将伸、横森大輔、城綾実、戸江哲理、串田秀也、早野薫、林誠、西阪仰



シリーズ 話し合い学をつくる 2 話し合い研究の多様性を考える

村田和代編 A5判・240頁・978-4-89476-929-8 定価 3,200円＋税 発行 2018.10

「シリーズ 話し合い学をつくる」待望の第二巻。多領域からの研究・実践報告や議論を通して、「共創」を実現するための「話し合いのモデル」と、それを基調とする「社会・制度・政策のあり方」を探求する「話し合い学」の構築をめざす。執筆者：村田和代、井関崇博、森篤嗣、杉山武志、青山公三、加納隆徳、田村哲樹、荒川歩、小宮友根、土山希美枝、篠藤明徳、坂野達郎、佐野巨



「ゲノム編集作物」を話し合う

三上直之・立川雅司著

A5判・128頁・978-4-89476-981-6 定価 1,400円＋税 発行 2019.3

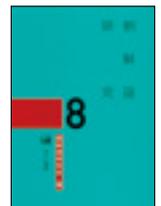
生物の遺伝子を自在に改変できるゲノム編集技術が農作物の品種改良にも導入されつつある。ゲノム編集作物は農業や自然環境、人の健康への光明か、脅威か。遺伝子組換え作物との違いは何か。栽培や流通にルールを設けるべきか。先端科学技術と生活との接点で生じるこうした疑問や論点について、専門家任せにせず市民が話し合い、考えていく可能性を探る。ゲノム編集技術の社会的意味や、科学技術に関する市民の参加と熟議に関心を持つ人に読んでほしい。



朝鮮語研究 8

朝鮮語研究会編 A5判・182頁・978-4-8234-1004-8 定価 5,000円＋税 発行 2019.9 *

本書は1983年4月に発足し、1999年からは正式に学会組織として活動してきた朝鮮語研究会の不定期刊学会誌『朝鮮語研究』の第8号である。本書には、発音の変化に関する論文、指示詞に関する論文、現代朝鮮語文法に関する論文、日朝対照言語学に関する論文、日朝対照文法論に関する論文が収められている。



日本語文法史研究 4

青木博史・小柳智一・吉田永弘編

A5判・308頁・978-4-89476-899-4 定価 4,000円＋税 発行 2018.10

本書は、日本語文法史の分野をリードする、隔年刊行の論文集の第4号である。今号では初めて、「コーパス」をテーマとする小特集が組まれた。特集テーマに基づいた論文4本の他、上代から中古、中世、そして学史、方言史までに亘る多様な研究論文6本、テーマ解説2本、文法史の名著、研究文献目録、といった充実した内容が収められている。執筆者：青木博史、池上尚、大木一夫、岡崎友子、岡部嘉幸、久保園愛、小柳智一、富岡宏太、蜂沢真弓、福沢将樹、宮地朝子、森勇太、吉田永弘



メタファー研究 2 特集：時間のメタファー

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰編

A5判・288頁・978-4-89476-982-3 定価 5,000円＋税 発行 2019.12 *

言語学、心理学、工学など、様々な立場からレトリックを研究し、意見交換する場を提供することを目的とした日本語用論学会メタファー研究会の発表を中心としたシリーズ。第2巻では「時間のメタファー」「比喩と隠喩」のテーマを中心に多様な論文を収録。執筆者：宮原勇、一川誠、篠原和子、岩崎真哉、大神雄一郎、本多啓、靱山洋介、笠貫葉子、大田垣仁、岡隆之介・楠見孝、石井康毅、Bipin Indurkha



日本語語用論フォーラム 3

加藤重広・滝浦真人編

A5判・308頁・978-4-89476-994-6 定価 5,000円＋税 発行 2020.3 *

日本語研究と語用論研究が通い合う広場(フォーラム)となることを目指して編まれたシリーズの第3巻。いま語用論の研究は、多様な領域と接触しながら、新たな研究テーマと成果が生み出され、熱く活性化されている。本書は、各領域の第一線で活躍する研究者や新進気鋭の研究者による、これからの語用論の研究にとって重要な論考を集めた論文集となっている。執筆者：井本亮、大津友美、荻野千砂子、後藤リサ、滝浦真人、鍋島弘治朗、平田未季、堀内ふみ野、山岡政紀



自然会話分析への語用論的アプローチ

BTSJ コーパスを利用して

宇佐美まゆみ編

A5判・396頁・978-4-8234-1039-0 定価 4,500円＋税 発行 2020.3 *

「人間の相互作用としてのコミュニケーション」の語用論的分析に適した「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」を活用して自然会話データを分析した「コミュニケーションの本質」に迫る論文集。語用論、談話分析、日本語教育の新境地を開く！執筆者：宇佐美まゆみ、木林理恵、野口美美、平山紫帆、磯野英治、母育新、李宇霞、鈴木卓、萩原孝恵、川口義一



ICT×日本語教育 情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践

當作靖彦監修 李在鎬編

A5判・304頁・978-4-89476-944-1 定価 3,000円＋税 発行 2019.3

ICTを利用した日本語教育の研究と実践の事例を紹介。研究編、実践編、ツール・コンテンツ編の3つの柱で構成。研究編ではウェブツールを利用した日本語教育の全体図を示す論考を収録。実践編では反転授業や仮想現実を取り入れた授業実践の具体例を紹介。ツール・コンテンツ編ではICTを利用した日本語テスト、学習支援アプリ、eラーニングの開発プロセスを紹介。理論と実践の両面から情報通信技術を利用した新しい日本語教育を提案する。



使える日本語文法ガイドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著

A5判・176頁・978-4-89476-997-7 定価 1,600円＋税 発行 2020.1 *

「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。国際交流基金のJF日本語教育スタンダードのA1からB1レベルの学習者を教える日本語教員が、日本国内外、母語話者かどうかによらず、授業の前に読んで使えるよう配慮。本書は単なる文法書でも、タスク集でもない。「文法は不要」と思っている方にも学習者に場面で必要なことができるようになるためのタスクにおいて、文法がどう埋め込まれているかをやさしく解く。



ひとりでも学べる日本語の発音 OJAD で調べて Praat で確かめよう

木下直子・中川千恵子著

B5判・104頁・978-4-89476-851-2 定価 1,600円＋税 発行 2019. 2

日本語初級後半以降の学習者を対象とした発音の自律学習教材。自分に合った持続可能な発音の学習方法が見つかるよう様々な方法を紹介する。例えば、基礎練習では OJAD で発音のルールを調べ、発音練習をしたあと、音声分析ソフト Praat で目標が達成できたかを学習者自身が確認する。発音の基礎だけでなくバリエーションも扱い、これまでの教材では取り上げられてこなかった喜怒哀楽などの感情をもちこむことで、楽しみながら学習ができるよう工夫した。

★音源はネットで提供。



そのまんまの日本語 自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子・小林美恵子・三枝優子・高橋美奈子・高宮優実・中島悦子・本田明子・谷部弘子著 B5判・140頁・978-4-89476-921-2 定価 2,000円＋税 発行 2020. 3 *

教えるのが恥ずかしくなるような、わざとらしくお行儀のいい会話、普通そんなこと言っていないよと言いたくなる型どおりの話し方、—— これらを廃し、従来の発想を大転換して本物の会話だけで作った中級学習者向けの日本語会話教科書。自然の談話の録音資料から選び抜いたナマの会話で、日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。会話文のほか、「自然会話の特徴」「文化ノート」からも、日本語と日本文化を学習できる。音声 CD 付。



日本で生まれ育つ外国人の子どもの日本語力の盲点

簡単な和語動詞での隠れたつまずき

西川朋美・青木由香著

A5判・256頁・978-4-89476-928-1 定価 3,200円＋税 発行 2018. 10

日本で生まれ育ち、日本の学校に通う外国ルーツの子どもたちが、普段の日本語の会話では何なく自由なく話しているように見えるのに、意外と簡単な日本語を知らないことがある。一見、不自由なく話しているのに、どうしてそのような簡単なことばを知らないのか。そして、そのような簡単なことばを知らないことで、学校での教科学習につまずくこともある。周りの大人がなかなか気づかないそのようなつまずきを教育上の盲点と考え、その実態を明らかにする。



フランス語を母語とする日本語学習者の誤用から考える

大島弘子編 A5判・272頁・978-4-89476-925-0 定価 4,200円＋税 発行 2018. 11

本書は、日仏研究者交流という形で、フランスの大学で日本語を教える日本語研究者、日本の日本語教育研究者・日仏対照研究者の論文をまとめたものである。フランス語を母語とする日本語学習者の出会う問題点、困難点という観点から分析を行い、その成果を教育へ還元することを目的とする。執筆者：秋廣尚恵、岩内佳代子、牛山和子、大島弘子、神山剛樹、黒沢晶子、砂川有里子、竹村亜紀子、中尾雪江、中島晶子、中村デロワ弥生、野田尚史、ジャン・バザンテ、東伴子



日本語を学ぶ中国八路军

我が軍ハ日本下士兵ヲ殺害セズ

酒井順一郎著 四六判・180頁・978-4-89476-939-7 定価 2,600円＋税 発行 2020. 3 *

戦争は兵士による武器の戦いだけではない。言語の戦いもある。日中戦争の際、中国八路军は、日本語を武器として扱った。日本人将兵に対して、投降や降伏さらには協力者を作るために日本語で工作をするためであった。そのために八路军は将兵に日本語教育を行い、これを駆使し日本人将兵の心に響く説得工作を行った。本書ではこれまで、ほとんど知られていなかった戦場における八路军敵軍工作の日本語教育について明らかにする。



蚕と戦争と日本語

欧米の日本理解はこうして始まった

小川菅子美著 四六判・424頁・978-4-8234-1031-4 定価 3,400円＋税 発行 2020.2 *

欧米の日本語学習は対日戦略とともに展開した。そのうち、国防、外交、交易など各国の国益と結びついた8つのトピックを紹介する。幕末の日本産「蚕」や日露戦争後の日本に注がれた関心が日本語の研究を促すなど、動機は意外なところにあった。16世紀から20世紀の西洋人の日本語学習は、綿密な計画とたゆまぬ努力、日本語教師たちの真摯な協力によって成果を生んだ。エピソードを交えながら当時の息吹を紹介する。



コリア系移住者の民族継承をめぐる 教育戦略と文化伝達

安本博司著 A5判・192頁・978-4-89476-954-0 定価 3,600円＋税 発行 2019.2

本書は、日本におけるコリア系移住者(韓国人ニューカマー、朝鮮族、在日コリアン)が、どのような要因の影響を受け、民族継承をしているのかを明らかにすることを目的としている。ここで言う民族継承とは、親が子どもにエスニックアイデンティティを持たせるための方略を意味し、母語継承、学校選択、チェサの継承に着目している。34名のインタビューデータを中心に分析し、コリア系移住者間の民族継承の違いについて考察する。(日本学術振興会助成刊行物)



隣国の言語を学び、教えるということ

日韓の高校で教える言語教師のライフストーリー

澤邊裕子著 A5判・352頁・978-4-89476-967-0 定価 6,000円＋税 発行 2019.3

英語教育が最も重要視される日本と韓国の学校教育において、韓国語や日本語を学び、教えることにはどのような意味や価値があるのだろうか。本書は隣国の言語の教育に携わってきた在日コリアン、韓国人、日本人高校教師たちの語りと授業事例の分析から、日韓の社会的文脈の中で教師たちが形成していった教育観、その表出としての教育実践、複言語・複文化の素養をいかにロールモデルとしての教師の存在意義と可能性を論じている。



読書教育の未来

日本読書学会編 A5判・384頁・2刷・978-4-89476-938-0 定価 5,000円＋税 発行 2019.7

日本読書学会設立60周年を記念して企画された「読書」にかかわる研究・実践の集大成。読書と発達、読むことの科学、読書と教育、社会生活と読書など、これまで教育心理学、国語科教育等の分野で示されてきた「読書」に関連する研究・実践の成果を幅広く取り上げるとともに、未来に向けて最新の研究動向や教育実践を様々な視点・論点から考察している。研究者、教員、学生、図書館や自治体、出版関係者はもとより、読書に関心を持つすべての人に価値ある情報を提供する。



江戸川乱歩新世紀 越境する探偵小説

石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子編

A5判・360頁・978-4-89476-971-7 定価 3,000円＋税 発行 2019.2

江戸川乱歩は欧米においても大衆文化やモダニズムとの関連で再評価がなされつつある。また乱歩の旧蔵資料、草稿・ノート・メモ等の自筆資料はほぼ完全なかたちで保存されており公開への期待も高い。そうした状況を踏まえ、本書では世界文学としての乱歩を再考するとともに旧蔵資料、自筆資料を広く活用したテキストの読み直しを行う。執筆：Seth Jacobowitz、大森恭子、韓程善、浜田雄介、石川巧、落合教幸、金子明雄、川崎賢子、小松史生子ほか



小説を読むための、そして小説を書くための小説集

読み方・書き方実習講義

桑原丈和著 四六判・244頁・978-4-89476-945-8 定価 1,900円＋税 発行 2019.4

小説を読むというのはどういうことなのか、小説を書くというのはどういうことなのか。語り論・読者論・インターテクスチュアリティなどの文学理論の基礎をふまえて、実際に短篇小説を読み、またそのパロディを書くことを通じて学んでいく。小説を論じたいけれども、その糸口がわからない人や、小説を書きたいけれども、自分のアイデアをどう形にしたらいいのかわからない人に向けた小説アンソロジーと解説からなる小説指南本。



語りの言語学的／文学的分析 内の視点と外の視点

郡伸哉・都築雅子編

A5判・278頁・978-4-89476-976-2 定価 4,000円＋税 発行 2019.3

小説の語りへの言語学と文学研究の共同アプローチ。第1部で事態把握の類型論的考察(日本語・英語・ロシア語対照)、言語進化の考察、語りと声をめぐる文学理論的考察を行ったのち、第2部でモンゴメリー、ブルガーコフ、夏目漱石の作品の原文と翻訳のテキストを分析する。日本語・英語・ロシア語を比較しながら、「内の視点と外の視点」という切り口から語りに迫る。執筆者：都築雅子、ペトリシェヴァ・ニーナ、中村芳久、郡伸哉



シリーズ 文化研究 4

近代芸能文化史における『壺坂靈験記』

生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ

細田明宏著 A5判・276頁・978-4-8234-1026-0 定価 7,800円＋税 発行 2020.2 *

『壺坂靈験記』は、明治20年(1887)に浄瑠璃として初演されたのちに歌舞伎や講談、浪花節でも上演されて人気を博した。妻の献身と観音の靈験により盲目の男が開眼するというストーリーや、お里・沢市という登場人物は広く人々に親しまれている。本書は、近代芸能史上にユニークな位置を占めるこの作品について、宗教的物語が芸能化してさまざまなジャンルに展開する過程をたどり、時代背景からその特質を明らかにする。〈日本学術振興会助成刊行物〉



ポストコロニアル時代の人文学と東アジア文化圏 1

越境する東アジアの文化を問う 新世紀の文化研究

千野拓政編 A5判・320頁・978-4-89476-978-6 定価 2,800円＋税 発行 2019.3

2010年代後半を迎え、貧富の差の拡大、民族紛争や難民の激増など世界で混迷が深まり、精神的危機が広がる。今日の問題に人文学は切り込むことができるのか。従来的人文学の超克をめざして立ち上がった文化研究。シリーズ1冊目の本書はサブカルチャーを中心に文化研究の最前線を取り上げる。若い読者の中でテキストの読み方が変化し作品と読者・視聴者の関係も変わりつつある。背後に東アジア全域の都市に広がりつつある若者の閉塞感や絶望がある。研究者、作家、音楽家、マンガ家が集い、あらためて問い直す。執筆者：上田岳弘、小沼純一、鈴木惣一朗、千野拓政、チャ・ウジン、陳栢青、とり・みき、林ひふみ、藤本一勇、賀照田、牧村憲一、ミーガン・モリス、宮沢章夫、毛利嘉孝、李南周、王曉明



中国現代文学 22

中国現代文学翻訳会編

A5判・178頁・978-4-8234-1030-7 定価 2,000円＋税 発行 2020.4 *

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第22号。郝景芳「遠くへ行くんだ」(疾駆する列車に乗った非力な若者の旅と挑戦)、星秀「春の日」に(DV家庭を抜け出す女性の奮闘と葛藤)、葉広苓「盗御馬」(陝北で過ごした知識青年の青春)、蘇童「紅馬(ホンマー)を弔う」(山の民と美しき紅馬の物語)のほか、図書紹介(徐則臣の長編小説『北上』)も掲載する。



基礎日本語学

衣畑智秀編 A5判・352頁・2刷・978-4-89476-946-5 定価 1,800円＋税 発行 2019.2

日本語学の諸分野を包括的にカバーする入門書。教科書としてはもちろん、日本語学の基礎知識を確認する独習にも。音韻、文法、語彙、表記、文体の共時的・通時的記述とともに、方言やコーパス、日本語学史、理論的研究についても解説。簡潔ながらも要点を押さえた記述で諸分野の導入を図るとともに、読書案内も付し、ますます日本語学が学びたくなる一冊。執筆者：五十嵐陽介、平子達也、衣畑智秀、金愛蘭、橋本行洋、澤田浩子、田中牧郎、平塚雄亮、佐野真一郎、窪田悠介、山東功



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編 A5判・328頁・978-4-89476-854-3 定価2,600円＋税 発行2019.5

古い文献に残された過去のことを調査し、日本語の歴史を明らかにするための技法を解説する日本語史研究の調査法マニュアル。古い文献とはどのようなものか、そこに書かれた内容をどう読み取るか、そこからどのように証拠を集め、日本語の歴史として組み立てるか、その手続きを具体的に説明する。日本語史の演習・ゼミや日本語史の卒業論文に最適。執筆者：大木一夫、勝田耕起、後藤英次、佐藤志帆子、マシュー・ジスク、鳴海伸一、百留康晴、松崎安子、安本真弓



失敗から学ぶ大学生のレポート作成法

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・132頁・2刷・978-4-89476-970-0 定価1,600円＋税 発行2019.4

大学初年次を対象とした、レポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例をあげながら、レポートの書き方を学ぶ。レポートにふさわしい表現や引用ルールなどの解説と、練習問題も収載。多くの実例とともに、レポート作成プロセス(問い立て、マッピング、アウトライン、推敲など)を詳しく解説しながら、無理なくレポートを完成へと導く。レポートのサンプルも掲載。網羅的にレポートの書き方を身につけられる1冊。



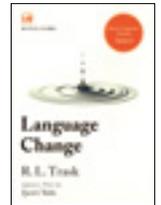
Hituzi's Linguistics Textbook Series 3

Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注釈

菊判・144頁・978-4-89476-999-1 定価1,700円＋税 発行2019.12 *

現代英語を含む英語の史的変化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著 A5判・248頁・978-4-89476-940-3 定価1,800円＋税 発行2019.10 *

本書は、私たちが持つ言語知識は抽象性や複雑性が異なる様々なタイプの構文のネットワークからなると考える構文文法の考え方を紹介する。言語経験から抽出された構文が私たちの言語活動を支えると考え、言語知識を文法と辞書に大別する伝統的な言語観とは異なる言語の姿がみえてくる。「構文」という概念を理解することで、英文法の知識が深まるとともに、認知言語学、談話・機能言語学、コーパス言語学、定型表現の研究等にも大いに役立つであろう。

ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ2

Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語

山根キャサリン著 山根建二訳

四六判・192頁・978-4-89476-859-8 定価1,600円＋税 発行2019.2

日本人は、「彼はいつもテンションが高くて、人気者です。」を He is popular because his tension is always high. という英語にすることがある。しかし、この文は英語として正しいものになっているのだろうか。カタカナ語を英語として使用することで起こる間違い、不自然な言い回し、動詞の使い分けなど、日本人が英語を使うときに注意すべきことを具体例で解説。英語を学ぶ人になくてはならない一冊。英語版も刊行。以下、参照。

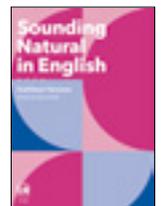


Sounding Natural in English

山根キャサリン著 内田聖二注釈

B5判・116頁・978-4-89476-863-5 定価1,600円＋税 発行2020.3 *

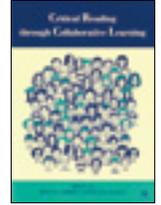
The focus of this volume is on common errors by Japanese speakers of English as identified by a long-term American resident and teacher. Part I deals with Common Lexical Errors, and is subdivided into sections on Nouns, Verbs, Adjectives and Adverbs. Part II focuses on Common Errors in Usage. With the Tokyo Olympics fast approaching, many Japanese have a renewed interest in improving their English language skills. The author hopes that this book will help them on their journey to speaking more natural English.



Critical Reading through Collaborative Learning

館岡洋子監修 津田ひろみ・大須賀直子・小松千明・Alison Stewart 著
B5判・128頁・978-4-89476-930-4 定価2,200円＋税 発行2019.3

学習者同士の協働学習で学ぶ英語リーディングのテキスト。各章にはさまざまなメディアから厳選した英文記事を収録。生活や文化、言語など、学習者が身近に感じられる話題をとおして英語によるアクティブラーニング型授業を提案する1冊。(全4ユニット構成。収録記事例：Unit3-Reading2「Could the Lingua Franca Approach to Learning Break Japan's English Curse?」(The Japan Times)、Unit4-Reading1「To Help Students Learn, Engage the Emotion」(The New York Times)など)



言語人類学への招待 ディスココースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著
A5判・264頁・978-4-89476-965-6 定価2,400円＋税 発行2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし、発展してきた言語人類学を、学部生、大学院生、また言語人類学に馴染みのない研究者に紹介する概説書。言語と文化の密接かつ不可分な関係性を代表的エスノグラフィ研究の紹介を通して紐解きつつ、ことばの使用実践からうかがいあがる多様な言語観・世界観を明らかにする。その上で、言語人類学が問い続けてきた解放的ことば観を論じ、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。



グローバル社会のコミュニケーション学入門

藤巻光浩・宮崎新編
A5判・298頁・978-4-89476-974-8 定価2,000円＋税 発行2019.3

グローバル社会はコミュニケーションによって成り立っている。本書はこれまであまり教科書で扱われなかった、SNSによる対人関係やヘルス・コミュニケーションなどを網羅した初学者向けの教科書である。学習者の置かれた立場に対して問いかける数々のエピソードを使い、コミュニケーションを批判的に学ぶ楽しさを習得できるようにしている。執筆者：佐藤良子、田島慎朗、平田亜紀、福本明子、藤巻光浩、宮崎新、宮脇かおり、森泉哲



メタ言語能力を育てる文法授業 英語科と国語科の連携

秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦編
A5判・304頁・2刷・978-4-89476-896-3 定価3,600円＋税 発行2019.8

英語を教えるには、授業は英語で行うことが本当に効果的なのか？ 本書は、日本の言語教育の現場においては、むしろ母語を用いて高次元から文法を分析・理解する「メタ文法能力」を育成することが学習者の国語力、英語力、さらには他の外国語能力の向上につながることを、東京大学教育学部と同学部附属中等教育学校の共同研究を元に論じるものである。執筆者：斎藤兆史、榎木貴之、王林鋒、越智豊、沖濱真治、大井和彦、藤江康彦、藤森千尋、三瓶ゆき、大津由紀雄、秋田喜代美



地方私立大学の英語教育への挑戦

地域で活躍できるプロフェッショナル人材の育成を目指して
大澤真也・市川薫編
A5判・280頁・978-4-89476-956-4 定価3,400円＋税 発行2019.2

大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、地方にある私立大学は、受験生や在学生のニーズを汲み取りつつ、魅力のある大学づくりをしないと生き残れない。本書では筆者らが勤務する地方私立大学学生の入学から卒業までの各種データの報告、そして4学期制対応の英語授業、通訳・翻訳プログラム、グローバル・コースなどの教育実践を紹介し、その成果を検証している。執筆者：市川薫、大澤真也、水野和穂、中西大輔、石塚浩之、戸出朋子、石井善洋、福元広二、高橋洋之、岸本晃治、柴原智幸、田中洋也、Jim Ronald、Keith Barrs



技能を統合した英語学習のすすめ

小学校・中学校・高等学校での工夫と留意

中森蒼之著 A5判・232頁・978-4-89476-924-3 定価2,400円＋税 発行2018.9

日本の実情に則した、英語教授学習理論を提案する。学校教育課程において、何に注意して指導し、何をしてはいけないのかについて、理由とともに示す。最新の言語習得理論と認知科学、学校教育臨床研究の知見を踏まえて、我が国独自の英語学習指導があるべき姿を、教育学の立場から考究していく。ことばを学ぶこととは何かを問い直し、言語教育の原点回帰を図る。英語を外国語として学び育てる全ての人、必携の書。



リフレクティブ・プラクティス入門

玉井健・渡辺教子・浅岡千利世著

A5判・200頁・978-4-89476-962-5 定価2,200円＋税 発行2019.3

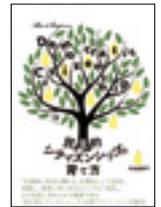
リフレクティブ・プラクティスとは何か、また何をどのようにふり返ればよいかに答えるべく、本書はリフレクティブ・プラクティスの理論的背景、実践方法、研究手法等を紹介している。また、教師教育におけるリフレクティブ・プラクティスに焦点をあて、教員養成段階の学生と現職教師のふり返りの実践方法、さらに教師教育に従事している著者のリフレクティブ・プラクティスとの関わりも述べている。



民主的シティズンシップの育て方

名嶋義直編 A5判・276頁・978-4-89476-937-3 定価3,000円＋税 発行2019.10 *

本書は「民主的シティズンシップ」を広めよう育てようとして意図して編まれた。まずドイツにおける民主的シティズンシップ教育の歴史と理念を確認し現地の学校の授業について報告する。続けて日本語教育における実践とドイツ語教育における実践の報告を行う。最後は語学教育や教育機関を超えたアジアにおける若者の国際共修実践を報告する。本書は、理念と実践、言語教育と国際共修、ドイツ欧州・日本・アジアといった「異なるもの」が境界を超えて融合したハイブリッドな「複数性」を重視した書籍である。執筆者：中川慎二、名嶋義直、野呂香代子、三輪聖、室田元美



批判的談話研究をはじめ

名嶋義直著 A5判・304頁・978-4-89476-927-4 定価3,200円＋税 発行2018.10

本書は筆者がこれまでに行ってきた批判的談話研究の中から、政治家の言説・沖縄米軍基地に関する言説・萌えキャラに関する言説・原発に関する言説を分析した9本の論文を取録したものである。批判的談話研究は決して談話研究や言語学の世界だけに留まるものではない。本書でもその学際性を反映して、ヘゲモニー論を取り入れたり日本語教育への応用を考えたり市民性教育への展開を試みたりしている。社会のあり方に興味関心のある人に広く読んでいただきたい。



ろう理容師たちのライフストーリー

吉岡佳子著 A5判・234頁・978-4-89476-955-7 定価4,400円＋税 発行2019.2

「耳が聞こえないこと」と「接客を伴う理容業」とは、一見ミスマッチとも捉えられる。本書では、ろう教育界の先人による理容業への優れた着眼を紹介し、高度な技術と強固な結束をもって闘達に生きてきたろう理容師たちの足跡を、当事者による語りを基軸に活写する。また、聴者の客たちとの間で展開される多様な工夫や自然な歩み寄りによるコミュニケーション実践を、日常的な「多言語・多文化共生」の一例として提示する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



紛争地域から生まれた演劇

国際演劇協会日本センター編 林英樹・曾田修司責任編集

A5判・468頁・978-4-89476-948-9 定価3,600円＋税 発行2019.8

シリア、パレスチナ、イランなど世界の「紛争地域」で、なぜ演劇は創られ、どのように演じられているのか。本書により、私たちは未知の紛争について知り、それが自分たちと直接関わりのある出来事であることを発見し驚愕する。欧米、アフリカ、そしてアジアの各地で。本書は、世界の歴史・文化・宗教・政治が、語り手・演じ手・観客という個人の視点を介して交錯し共鳴する、圧巻の「現代・世界・演劇」探究の書である。



これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクトの意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第160巻 認知言語学の最前線

山梨正明教授古希記念論文集

児玉一宏・小山哲春編 A5判・978-4-89476-993-9

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端で何が行われているかを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。

第162巻 日本語文法史の視界

継承と発展をめざして

高山善行著 A5判・978-4-8234-1008-6

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。

第171巻 「重複」の文法的研究

程莉著 A5判・978-4-8234-1018-5

表現の重複は、「量の公理違反」という語用論の問題でしかないのだろうか？ 実際には、重複表現は言語の至るところに遍在しており、その自然さは、言語によって、また構文によって異なる。「冗長性」として忌避される重複だけでなく、許容される重複、好まれる重複、果ては「一致」「呼応」「同族目的語」「係り結び」の名のもとに文法システムに取り込まれて必須のものとなる重複まで、さまざまなものがある。本書は、現代日本語と現代中国語における重複表現の自然さを、文法の観点から記述分析し、重複と文法関係を明らかにした。

第172巻 連濁の規則性をもとめて

平野尊識著 A5判・978-4-8234-1019-2

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止

する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。

第173巻 語法と理論との接続をめざして

英語の通時的・共時的広がりから考える17の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

A5判・978-4-8234-1020-8

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を17編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる1冊である。執筆者：家入葉子、石崎保明、植田正暢、内田充美、大谷直輝、樗木勇作、金澤俊吾、岸浩介、木山直毅、久米祐介、柴田かよ子、中村文紀、縄田裕幸、平沢慎也、廣田友晴、藤川勝也、松山哲也、柳朋宏

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第175巻 テキスト語彙論

テキストの中で見ることばのふるまいの実際

高崎みどり著 A5判・978-4-8234-1054-3

本書は、実際のテキストの中で語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論やCDA(批判的ディスコース分析)にも目配りしている。

第176巻 中国語の役割語研究

河崎みゆき著 A5判・978-4-8234-1055-0

中国語にも役割語が存在するのか、するならどのような生態で、中国語の特質とどう関係するのか、翻訳や外国語教育、

言語学に貢献しうるかを以下の面から調査研究した。1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」、3. 非言語行動と人物像、4. 非言語成語と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象、7. 「役割語」のリソースとしての小学校語文教科書。2017年に北京・商務印書館より発行した本の日本語版。

第177巻 日本語複文構文の機能論的研究

田中寛著 A5判・978-4-8234-1057-4

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導の機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。

講座 言語研究の革新と継承 [全8巻]

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究を見通せることができる一冊。執筆者：高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

シリーズ言語学と言語教育

40 日本語教育の新しい地図

専門知識を書き換える
青木直子、バーデルスキー・マシュー編
A5判・978-4-8234-1022-2

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す。執筆者：青木直子、バーデルスキー・マシュー、リー・ウェイ(翻訳：チャン・エイミー)、百濟正和、義永美央子、西口光一、マリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治、ケリー・カーティス(翻訳：富田キアナ)、宮原万寿子、八木真奈美、入江恵、中山亜紀子、柴原千佳、クラムシュ・クレア、川嶋恵子、中井好男、脇坂真彩子、欧麗賢、濱川祐紀代、瀬尾悠希子、末吉朋美

42 日本語および外国語の実証的言語習得研究(仮)

玉岡賀津雄編 A5判・978-4-8234-1058-1

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとする、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」というアプ

ローチの研究を、詳細な解説を含んで8つ掲載した。執筆者：王蕾、斉藤信浩、張婧禕、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子

ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ(赤野一郎・内田聖二監修)

3 接辞からみた英語(仮)

西川盛雄著 四六判・978-4-89476-932-8

英語を学ぶに際し、語の仕組みについて知ることはとても重要。語の仕組みや意味や語源を知ることはこれを使う技能のレベルアップにつながる。語形成の重要な要素は接辞。接辞が分かれば英語が身近で面白く、魅力的に見えてくる。本書は英語の接辞付与による語形成について分かりやすく具体的に説明した。本書を読めばさまざまな発見があるはず。本書によって英語の語形成の面白さが分かり、語彙が増え、英語力が高まることが期待できる。

4 カタカナ語からはじめる英語の発音(仮)

中西のりこ著 四六判・978-4-89476-991-5

日本語母語話者が英語発音を学ぶ際、カタカナ外来語の発音との混同が起こりやすい。しかし日本語発音と英語発音のしくみの違いを体系的に理解できれば、発音を学ぶことは難しくない。本書では、日常語として馴染みのあるカタカナ語を例に、敬遠されがちな発音記号を分かりやすく説明する。さらに音声変化やプロソディのしくみについても解説し、発音練習におすすめの学習法を紹介する。身近にあるカタカナ語の知識を活かして、発音の苦手意識を克服してほしい。

シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

2 鮭屋で握りを注文する(仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮭屋にフィールドを求め、親方をはじめとする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるものはずである。鮭屋の注文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出していつているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

5 「三夜講」で祭りを準備する(仮)

野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み
榎本美香編 A5判・978-4-89476-735-5

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様子を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田瑠衣、高梨克也、寺岡丈博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通

2 文学の未来を問う

日本と中国、一国主義を超えて

千野拓政・鳥羽耕史編 A5判・978-4-89476-979-3

グローバル化とともに激変する世界の中で、難しい位置に立つ文学。もはや日本、中国といった単体で考える意味は薄れている。創作の現場で作家はどのような問題に直面し、研究者はそれをどう捉えることができるのか。日本と中国の最先端で活躍する作家・研究者が文学の現状と未来を語り尽くす。執筆者：酒井直樹、古川日出男、閻連科、王曉明ほか。

3 人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？

千野拓政・草原真知子編 A5判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか。

未発選書

27 女性たちの物語

女性作家・児童文学・教科書教材

西田谷洋著 四六判・978-4-8234-1047-5

児童文学の女性作家たちはどのような物語を紡ぎ出したのだろうか。児童文学は一見子供向けとされるが、実際には別世界への飛翔だけでなく、時にメランコリックで無気力な人物を描き、死や記憶にまつわる物語が編まれていた。本書は、教科書教材に採用されることも多い安房直子・あまぎみこ・小川洋子の作品と共に、吉本ばなな・山内マリコの小説、岡田麿里脚本のアニメ、香魚子の少女漫画を取り上げ、女性児童文学の様相を探る。

28 マンガ学からの言語研究

「視点」をめぐって

出原健一著 四六判・978-4-8234-1048-2

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるような新たな視点理論の提案を試みる。

日本語文法史キーワード事典

青木博史・高山善行編 四六判・978-4-89476-966-3

文法史研究は、現在、日本語学の中で最も活気のある分野の一つである。ただし、多様な研究成果が公表される一方で、細分化・専門化により研究の全体像が見えにくくなってきている面もある。本書は、日本語文法史の世界を俯瞰し、読み

解く道標として77のキーワードを精選し、簡明に解説をおこなったものである。専門的な研究者のみならず日本語文法史について学びたい一般読者にも最適な一冊。

発話の権利(仮)

定延利之編 A5判・978-4-89476-983-0

車が動かないのは、運転手がペダルを踏み間違えているからである。それを見つければ車内の誰でも「あ、ブレーキ踏んでる！」と言える。だが、「あ、ブレーキ踏んでた！」は基本的に運転手しか言えない。この運転手の「特権性」はどこから、どのように生じるのか？ 語用論、会話分析、人類学、動物行動学の第一線の研究者たちの「答」がここにある。執筆者：木村大治、串田秀也、定延利之、園田浩司、高梨克也、中村美知夫、細馬宏通、村田和代

【研究プロジェクト】時間と言語

文法研究の新たな可能性を求めて

益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

A5判・978-4-89476-992-2

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美

「させていただく」の歴史社会語用論研究

質問紙調査とコーパス調査による共時的・通時的考察

椎名美智著 A5判・978-4-8234-1056-7

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマン的枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す

小林ミナ・船橋瑞貴編 A5判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体の状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合っている存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレアマリイ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、船橋瑞貴

日本語の乱れか変化か

逸脱表現や新語の発生と許容
金澤裕之・川端元子・森篤嗣編
A5判・978-4-8234-1037-6

ルールからの逸脱というとは一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの1冊。執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、鴻野知暁、佐々木文彦、ダニエル・ロング、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一

方言の研究 6

日本方言研究会 A5判・978-4-8234-1045-1

投稿論文3本、資料・情報1本を掲載する。また、「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」の連載を開始し(本号は各2本掲載)、最新の方言研究に具体的かつわかりやすく導くとともに、方言研究を下支えしてきた市民による方言学に光を当てる。執筆者：今村かほる、上野善道、大野眞男、ケナン・セリック、小林隆、佐藤亮一、真田信治、下地理則、杉本妙子、竹田晃子、林由華、日高水穂、半沢康、森勇太

5分間で言語学 一口サイズのことばへの誘い

リッカーソン・ヒルトン編 上田功、大津智彦、加藤正治、早瀬尚子監訳 A5判・978-4-89476-840-6

ことばは、空気のように我々の周りに当たり前に存在し、かつ不可思議で複雑である。本書では、一流の言語研究者が平易な語り口で、未知なることばの世界へと読者を誘う。60からなる各章は短い。言語の起源、動物の言語、世界の書き言葉、手話言語、言語の変化等、様々な角度からことばに迫る。時間の許すときに手に取り、読み始めてみよう。翻訳者：上田功、大津智彦、加藤正治、金子理紗、奥藤里香、田中瑠子、高森理絵、中尾朋子、早瀬尚子、渡邊拓人

認知言語学と談話機能言語学の有機的接点 (仮)

用法基盤モデルに基づく新展開
中山俊秀・大谷直輝編 A5判・978-4-89476-995-3

本書は、言語を実際の言語経験に基づいて形成される動的な知識体系として捉える用法基盤モデルを接点として認知言語学と談話機能言語学の有機的融合を図り、言語知識、言語獲得、言語運用に関する研究の新展開の可能性を示す。第1部と第2部で用法基盤モデルで想定される言語観を概観し、第3部では学際的な視点から行われた9つの研究を実例としてあげる。執筆者：岩崎勝一、大谷直輝、大野剛、木本幸憲、佐治伸郎、サドラー美澄、柴崎礼士郎、鈴木亮子、第十早織、巽智子、田村敏広、長屋尚典、中山俊秀、堀内ふみ野、松本善子、吉川正人

実験認知言語学の深化 (仮)

篠原和子・宇野良子編 A5判・978-4-8234-1005-5

2008年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以

来10年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりがつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobinなど実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、ポニー=マクリーン、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人

認知言語学論考 No.15

山梨正明編 A5判・978-4-8234-1029-1

認知言語学の出現の背景と言語研究の新たな展望 山梨正明／身体投射 沖本 正／時間の流れに関する認知言語学的考察 吉本一／《指示》の文法を考える 深田智／相互行為における指示の構造と指示表現の選択 平田未季・山本真理／商標言語学 五所万実／特定のインスタンスに成立するメトニミーの理解過程について 伊藤薫／命令・禁止表現から接続表現へ 朱冰・堀江薫／逆接「～ながら」の周辺事例的解釈 梶川克哉

異分野融合研究のためのテキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編
A5判・978-4-8234-1000-0

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング(TM)に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編ではTMの理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野におけるTMの実践的な研究例を提示する。執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、秦正樹、畑島英史

シリーズ ドイツ語が拓く地平2

ドイツ語と向き合う

井出万秀・川島隆編
A5判・978-4-89476-998-4 定価4,000円+税

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第2巻。第1部「異言語に生きる」では、複数の言語のはざままで生きる人々の経験のなかでドイツ語が果たしてきた役割を見る。第2部「ドイツ語の主題と変奏」では、標準語、正書法、文法など制度面の転換点に光をあて、ドイツ語が今の姿になるまでのプロセスを俯瞰する。執筆者：井出万秀、川島隆、黒田亨、佐藤恵、真田治子、大喜祐太、高田博行、多和田葉子、中直一、浜崎桂子、美留町義雄、村瀬田出夫

メディアとことば 5

特集：政治とメディア
秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編
A5判・978-4-89476-996-0

近年、世界的に政治は流動期に入っていると言える。その動きを、メディアなくして私たちが把握するのは不可能に近い。今回の特集では、そのような重大な役割を担うメディア

が実際にどのように機能しているのかを、政治とメディアの共謀の関係や、政治とメディアの有り様などから紐解く。各章にキーワードのコラム付き。執筆者：五十嵐浩司、遠藤薫、岡本能里子、片岡邦好、金水敏、佐藤彰、辻大介、坪井睦子、秦かおり

シリーズ 話し合い学をつくる3

これからの話し合いを考えよう

村田和代編 A5判・978-4-8234-1002-4

「シリーズ 話し合い学をつくる」待望の第三巻。話し合いは合意形成のツールとして考えられがちだが、目的はそれだけなのだろうか。多領域からの研究・実践報告や議論を通して、あらためて話し合いの機能や可能性を考える。そして、人口減少や超高齢化社会を迎えるこれからの日本社会にとって、話し合いがどのように貢献ができるのかについても問い直す。執筆者：佐藤徹、田中富雄、岡本能里子、服部圭子、中川雅道、杉岡秀紀、宗田勝也、佐野亘、森本郁代、香取一昭、野村恭彦、中村香苗、村田和代

ナラティブ研究の可能性 (仮)

語りが写し出す社会

秦かおり・村田和代編 A5判・978-4-8234-1006-2

本書は、多様なアプローチからの研究方法を用いてナラティブ(語り)を考察する実証研究論文9本とイントロダクションから構成される。様々な場所で、様々な人を相手に語られたナラティブを紐解くことで、そこに反映されている現代の価値観や社会規範を批判的に読み解き、それに基づく問題の所在とその解決を導くことをめざしている。執筆者：相田慎、石原凌河、植田栄子、大場美和子、佐藤彰、秦かおり、村田和代、山口征孝、吉田悦子、饒平名尚子

シリーズ 文化と言語使用2

場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子編 A5判・978-4-89476-792-8

『コミュニケーションのダイナミズム』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第2巻。既存の語用論理論に新しい語用論の世界を切り拓く一冊。これまでの語用論理論から漏れてしまった非西欧社会の言語実践現象に息吹を与え、日本語のみならず、ハワイの文化・コミュニケーションの理解などに資する世界的視野からの新しい理論の提案書。執筆者：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫・古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト

日本における言語社会化ハンドブック

クック治子・高田明編 A5判・978-4-8234-1049-9

人類学、言語学、心理学、社会学などが交差する領域で近年発展し、注目されている「言語社会化」アプローチの古典と最新の研究をまとめて紹介する本邦初の書籍。言語社会化の研究は、文化的新参者が「文化の文脈」と関連させつつ「状況の文脈」をどのようにとらえるのか、またそうしたとらえ方を文化的熟練者がどのように示唆するのかを明らかにする。これにより、「言語を使うための社会化」と「言語を使うことを通した社会化」を結びつけながら追究する。

ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科

金村久美・松田真希子著

A5判・978-4-89476-919-9 定価 3,200円＋税

近年、ベトナム人の日本語学習者が急増しており、彼らの発音指導に困難を感じている指導者が多い。どうしてこのような発音になるのか？ 彼らの母語のベトナム語にはどのような仕組みがあるのか？ どのように指導すれば上手になるのか？ 本書は、ベトナム語母語話者に日本語の発音を教える際の悩みの声に応える1冊である。ベトナム人学習者のさまざまな発音の特徴を解説し、その原因と効果的な指導法を紹介する。

ゼロからはじめる数理的言語研究入門 (仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著

A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていないかった。関心を持って、初学者にはなかなか手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手の言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストラレーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

質的言語教育研究を考えよう (仮)

リフレクシブに他者と自己を理解するために

八木真奈美・中山亜紀子・中井好男編

A5判・978-4-8234-1042-0

言語教育の分野でも広がる「質的研究」。興味があるけど、どうやるの？ インタビューをすれば質的研究？ 結果は一般化しないの？ 様々な疑問に、言語教育の実践者である執筆者が、それぞれの研究とその裏側を明かし、新たな概念の提唱を試みた渾身の書。初心者も経験者も質的研究の真髄を知りたいなら、この1冊。執筆者：八木真奈美、中山亜紀子、中井好男、李曉博、脇坂真彩子、欧麗賢、大河内瞳、サマンティカ・ロクガマゲ、嶋本圭子、瀬尾悠希子

統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著 A5判・978-4-8234-1028-4

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方で、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。

問い・質問・発問に関する実践と理論 (仮)

主体的で探求的な学びの実現に向けて

小山義徳・道田泰司編

A5判・978-4-8234-1035-2

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、亀岡淳一、鑄木良夫、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、たなかよしこ、中山晃、野崎浩成、深谷達史、道田泰司

JACET 応用言語学研究シリーズ 第1巻

英語授業学の最前線

一般社団法人大学英語教育学会(JACET) 浅川和也・田地野彰・小田眞幸編 A5判・978-4-8234-1040-6

1962年の創立以来行ってきた応用言語学研究の理論と実践を形として残すためにスタートしたのが本JACET 応用言語学研究シリーズである。創刊号の本書は、授業学をテーマに開催された「英語教育セミナー」(2016～2018年度)を総括した内容(基礎編、理論編、応用編、資料編)の4部構成である。授業学の第一線で活躍する研究者達による珠玉の1冊である。執筆者：ジュディス・ハンクス(訳：加藤由崇)、柳瀬陽介、吉田達弘、竹内理、浅川和也、岡田伸夫、村上裕美、佐藤雄大、馬場千秋

英語学習 7つの誤解(新版) (仮)

大津由紀雄著 A5判・978-4-89476-780-5

「英語学習は早く始めるほどよい」、「留学すれば英語は確実に身につく」、「英語学習は母語を身につけると同じやり方で進めるのが効果的である」など、英語学習に関してよく耳にする7項目を取り上げて、それがじつは誤解であることをわかりやすく解説する。そのうえで、英語学習ではどんな方法が効果的なのかを探る。英語使いの達人たちがどうやって英語を身につけたかについてのアンケート調査の結果も取られている。

新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治、ダニエル・ロング、朝日祥之、簡月真、李舜炯編

A5判・978-4-89476-942-7

社会言語学の各領域におけるトピックを集成し、それぞれの裏付けとなったデータを図表の形にして掲げ、日本語と英語・中国語・韓国語で簡潔な解説を加えた。近年、大学等での授業科目として「社会言語学」が取り上げられることが多くなった。本図集は、そのための教材として新たに編修したものである。日本語をもとにして、英語、中国語(繁体字)、韓国語による要約も掲げているので、対照しつつ外国語学習としても活用できよう。

新科目「公共」について考える

ひつじ書房編集部編

A5判・978-4-89476-913-7

高校の社会科学の新しい科目として「公共」が2022年から誕生することになった。もし、国語科の意味が、国民が市民として、議論し、政治的な市民性を発揮することにもあるのなら、哲学と言語の連携は重要であるはずである。社会学・国語科教育・哲学・言語学・コミュニケーションほか、関与するテーマの研究者による議論の書。執筆者：五十嵐沙千子、唐木清志、定延利之、佐野亘、深瀬幸一、村田和代、森本郁代 ほか

ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ

大学の新しい役割

白石克孝・西芝雅美・村田和代編

A5判・978-4-8234-1003-1

大学に求められる新たな役割とは。本書は、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。日英2言語併記。執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、スティーブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーヌ・フィッツモリス、向野也代、ジュニア・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝

Analyzing Japanese Syntax

A Generative Perspective

岸本秀樹著

菊判・978-4-89476-988-5 定価2,600円+税

意外なほどに身近な英語と日本語の言語現象を通して、普段気がつかないことばの仕組みへ招待し、生成文法の考え方を学ぶ。言語系の学生ばかりではなく、また、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、生成文法の考え方や面白さに興味を持ってもらい、文法について考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。『ベーシック生成文法』の英語版。

ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

A5判・978-4-8234-1044-4 定価1,700円+税

語彙には歴然とした体系性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。

目指せ！ 書ける大学生

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方
澤村美幸・朴秀娟・新井由美著
B5判・978-4-89476-941-0

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの?」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいの?」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩的問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。

「書くこと」の授業をつくる (仮)

中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』
名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科編
A5判・978-4-8234-1041-3

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。

中高生のための本の読み方

読書案内・ブックトーク・PISA 型読解
大橋崇行著 四六判・978-4-8234-1027-7

Web マガジン「未草」で連載された「中高生のための本の読み方」が書籍化。中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、書き下ろし部分では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わる OECD の PISA 型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。

ゼロからはじめる哲学対話 (仮)

大人から子どもまでを対話に
河野哲也編 得居千照・永井玲衣編集協力
四六判・978-4-8234-1032-1

哲学カフェ、子どもの哲学、企業内哲学対話をやってみたい人のための必携ハンドブック。経験豊かな実践者が執筆を担当。人の集め方、場所の決め方、問いの出し方、対話の進め方、使える道具、困った時の対応の仕方など具体的な解決案が満載。対話に必要な哲学史と哲学説の知識も一通り学べる。誰もが使える対話と思考のためのガイドブック。

中国現代文学案内 (仮)

栗山千香子・上原かおり編 A5判・978-4-89476-960-1

今、中国や台湾にはどんな作家がいて、どんな作品を書いているの? 日本語で読みたいけれど、翻訳はあるの? 一中国や台湾に関する本はたくさん出版されているが、こんな疑問に答えてくれる本が実はない。本書は、中国および台湾、香

港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう編まれた案内書である。作家ごとの「作家ファイル」や「作品データ」等を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できるような心がけた。

欧文タイポグラフィへの招待 (仮)

河野三男著 A5判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広告類にも通用する、デザイニングの要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

立教大学 日文叢書 1 小劇場演劇とは何か (仮)

後藤隆基編 978-4-89476-972-4

近代日本演劇史に〈小劇場演劇〉を位置づけ、その流れを辿る。さらに歴史的観点とともに、現在においてどのような劇団がどのような活動をしているのか、現代の小劇場演劇の諸相についても考察する。また、日本に留まらず世界の小劇場演劇の様相についても概説し、総合的に小劇場演劇について理解を深めることができる一冊。執筆者：石川巧、内野儀、梅山いつき、加藤敦子、後藤絢子、後藤隆基、篠崎直也、嶋田直哉、相馬千秋、高萩宏、仲田恭子、中村邦生、那須佐代子、新野守広、早船聡、日置貴之、細井尚子、堀切克洋、松本和也

「言語復興の港」の琉球語絵本シリーズ [全4冊]

ディラブディ

山田真寛・山本史・與那覇悦子著
A4判・978-4-8234-1050-5

与那国島の民謡を元にした与那国語による創作物語。与那国語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。
おなかをすかせた子どもたちのために、ディラブディはたいまつを、ウヂヤマトイサは銚子を持って、アブヒティ浜に魚をとりに行きました。イラブタイユ、ミサダイユ、ミーバイ、カタカシン…ウブダヌ浜に上がって突いた魚を数えると、360匹! 家族みんなでおなかいっぱい食べました。

星砂の話(ふしぬ いんのぬ はなし)

中川奈津子・山本史・内盛スミ著
A4判・978-4-8234-1051-2

竹富島に伝わる伝説。竹富語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。
お母さん星とお父さん星が星の子供を生む場所に、大明神の言うことを聞いて竹富の南の海を選んだが、七竜宮神の怒りに触れてしまい…。竹富島の真っ白な美しい浜には、星の形をした砂が落ちている。この星砂がなぜ竹富にあるのか、またこれにまつわる儀式をなぜおこなっているのか。竹富島の自然や風習と神様がつながっていて、その近さがわかります。

カンナマルクールの神(カンナマルクールクぬ かむ)

下地賀代子・山本史・野原正子著

A4判・978-4-8234-1052-9

多良間島に古くから伝わる昔話。多良間語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

多良間島に生まれた絶世の美少女カンナマルクール。島の若者たちはその美しさに、寝食を忘れるほど魅了され次々倒れていく。これを案じた守姉は、カンナマルを浜へと連れ出した。魚を焼いて食べさせている間に岩陰に隠れ、そっと見ていると…。物語の中には実在する海や拝所も出てきます。

塩一升の運(ましゆ いっしゆーぬ くれー)

横山晶子・山本史・松村雪枝・田中美保子著

A4判・978-4-8234-1053-6

沖永良部島で古くから伝わる昔話。沖永良部語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

浜辺で長者が昼寝していると、神様たちの話し声が聞こえてきた。集落で生まれた赤ん坊に運命を授けに行くという。女の子には塩一升の運、男の子には竹一本の運が授けられた。二人はやがて夫婦になるが、ある事がきっかけで夫が妻を追い出してしまう。数年後再会した二人はすっかり命運が分かれています…。言葉と語りの多様性を感じられる絵本です。

テキストのご案内

● 日本語学

基礎日本語学

衣畑智秀編

A5判・352頁・2刷・978-4-89476-946-5
定価1,800円+税 発行2019.2

過不足のない記述で日本語学の諸分野を包括的にカバーし、日本語学を学びたい、または知りたいと思ったときに、まず一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・4刷・978-4-89476-710-2
定価1,800円+税 発行2016.12

入門テキストとして好評を博した1997年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。



ベーシック現代の日本語学

日野資成著

A5判・242頁・4刷・978-4-89476-438-5
定価1,700円+税 発行2009.4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・7刷・978-4-89476-468-2
定価1,900円+税 発行2009.6

好評を博した1993年の初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる1冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・11刷・978-4-89476-174-2
定価1,800円+税 発行2000.3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・7刷・978-4-89476-244-2
定価2,400円+税 発行2005.4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短かにまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック方言研究

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・8刷・978-4-89476-183-4
定価1,800円+税 発行2003.2

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・5刷・978-4-89476-489-7
定価1,900円+税 発行2010.4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・3刷・978-4-89476-615-0
定価2,200円+税 発行2013.5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・978-4-89476-854-3
定価2,600円+税 発行2019.5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版*

中島平三著

A5判・160頁・6刷・978-4-89476-575-7
定価1,400円+税 発行2011.8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習*

中島平三著

A5判・128頁・3刷・978-4-89476-519-1
定価1,600円+税 発行2011.2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版*

児馬修著

A5判・168頁・2刷・978-4-89476-877-2
定価1,600円+税 発行2018.1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。

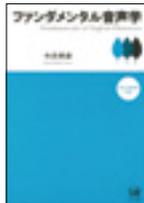


ファンダメンタル音声学*

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価2,400円+税 発行2007.5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM付。



ベーシック英語史

家入葉子著

A5判・138頁・5刷・978-4-89476-349-4
定価1,600円+税 発行2007.3

英文法の不規則さは歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びとと全てのための本。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価1,800円+税 発行2019.10*

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



ベーシック新しい英語学概論*

平賀正子著

A5判・228頁・4刷・978-4-89476-554-2
定価1,700円+税 発行2016.1

異文化コミュニケーションという視点から、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。



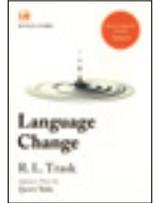
Hituzi's Linguistics Textbook Series 3

Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注釈

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価1,700円+税 発行2019.12*

現代英語を含む英語の歴史的变化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・6刷・978-4-89476-336-4
定価1,200円+税 発行2007.3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・6刷・978-4-89476-282-4
定価1,200円+税 発行2006.4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・2刷・978-4-89476-608-2
定価1,600円+税 発行2014.5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・5刷・978-4-89476-426-2
定価1,600円+税 発行2009.3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。



ベーシックコーパス言語学

石川慎一郎著

A5判・288頁・2刷・978-4-89476-547-4
定価1,700円+税 発行2012.4

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初学者にも分かりやすく平易に解き明かす。



ベーシック応用言語学

L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・368頁・978-4-89476-795-9
定価1,800円+税 発行2017.3

個別的に論じられることの多かった、第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



学びのエクササイズ子どもの発達とことば

伊藤崇著

A5判・160頁・978-4-89476-855-0
定価1,600円+税 発行2018.5

家庭内での会話や学校での授業など、0歳から18歳までの子どもが出会う多様な社会的場面で起こるコミュニケーションから、言語発達過程にひとつの筋道を読み解く。



概説 社会言語学

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・328頁・5刷・978-4-89476-637-2
定価2,200円+税 発行2013.3

社会言語学とは何を研究する学問なのか、社会言語学を学ぶことで言語や言語の背景にある社会・文化について何がわかるのかについて、学部生にもわかるように書かれた入門書。



言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著

A5判・264頁・978-4-89476-965-6
定価2,400円+税 発行2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。



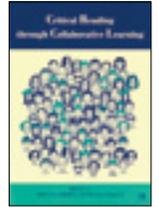
● 英語学習

Critical Reading through Collaborative Learning

舘岡洋子監修 津田ひろみほか著

B5判・128頁・978-4-89476-930-4
定価2,200円+税 発行2019.3

協働学習で学ぶ英語リーディングのテキスト。様々なメディアから厳選した英文記事を収録。学習者が身近に感じられる話題をとおして英語によるアクティブラーニング型授業を提案する。



脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著

A5判・320頁・3刷・978-4-89476-858-1
定価1,600円+税 発行2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとり入れ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類の話題を収録した、英語実践練習のテキスト。



● スタディスキル

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・132頁・2刷・978-4-89476-970-0
定価1,600円+税 発行2019.4

大学初年次を対象としたレポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例を挙げながら、レポートにふさわしい表記、引用ルールから作成プロセスまで基礎から段階的に学ぶ。



日本語を書くトレーニング*

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・2版3刷・978-4-89476-177-3
定価1,000円+税 発行2014.12

2003年の初版刊行後、変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。

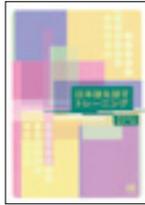


日本語を話すトレーニング*

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・5刷・978-4-89476-210-7
定価 1,100円+税 発行 2004.3

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人あまり上手に話していない音声聞くことにより考える。



これから研究を書くひとのためのガイドブック

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・9刷・978-4-89476-368-5
定価 2,000円+税 発行 2008.5

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段取りをマスターできる。CD-ROM付。



Writing for Academic Purposes

英作文を卒業して英語論文を書く

田田野彰ほか編

A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3
定価 2,000円+税 発行 2010.4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション*

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著

B5判・168頁・4刷・978-4-89476-471-2
定価 1,500円+税 発行 2012.2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]*

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

B5判・150頁・5刷・978-4-89476-709-6
定価 1,600円+税 発行 2014.7

2005年の初版刊行後、変化した学生生活に合わせてリニューアル。相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm



グループワークで日本語表現力アップ*

野田春美ほか著

A5判・176頁・3刷・978-4-89476-802-4
定価 1,400円+税 発行 2016.3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング*

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校
国語科著 執筆協力・戸田山和久

B5判・224頁・4刷・978-4-89476-700-3
定価 1,600円+税 発行 2014.5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。「論理的」とはどういうことかに始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論*

西田谷洋著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-703-4
定価 1,400円+税 発行 2014.4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分けて解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



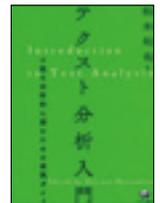
テキスト分析入門

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・3刷・978-4-89476-836-9
定価 2,000円+税 発行 2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではなく、小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術を分析する方法を具体的に解説。



小説を読むための、そして小説を書くための小説集

読み方・書き方実習講義

栞原丈和著

四六判・244頁・978-4-89476-945-8
定価 1,900円+税 発行 2019.4

語り論・読者論・インターテクスチュアリティなどの文学理論の基礎をふまえて、実際に短篇小说を読み、またそのパロディを書くことを通して書き方を学んでいく。



●日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・9刷・978-4-89476-285-5
定価1,900円＋税 発行2007.4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補完できるようになっている。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2
定価2,000円＋税 発行2020.3★

実際の会話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声CD付。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

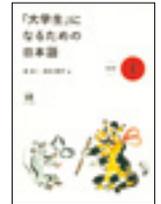
1: B5判・192頁・4刷・
978-4-89476-435-4

定価1,900円＋税 発行2009.10

2: B5判・252頁・2刷・
978-4-89476-462-0

定価1,900円＋税 発行2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもちいた読解文、より自然な会話を目指した聴解CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える1冊。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い【本冊 テーマ学習・タスク活動編】★ 【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

本冊: B5判・224頁・4刷・
978-4-89476-758-4

定価3,000円＋税 発行2015.5

別冊: B5判・144頁・4刷・

978-4-89476-801-7

定価1,800円＋税 発行2016.3



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記のURLをご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<http://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

2019年10月号 近世文学における規範・型 / 2019年11月号 日本(語)文学の越境と翻訳 / 2020年1月号 文学教育の挑戦 / 2020年3月号 日本文学協会第74回大会 国語教育の部 〈読むこと〉の価値の創造

※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>)までお願いいたします。



製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集や販売を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。

●インタラクティブPDF版

日本語音声コミュニケーション 8 (日本語音声コミュニケーション学会)

目次

延伸ととぎれの機能—日本語母語話者のデータから(砂川有里子・佐々木藍子) / 発話音調の役割と音調句の型(馬場良二) / マルチモーダルな観点から見た日中ビジネス場面の同調行動の異なり(楊一林)